

令和5年度 一宮小学校 総括評価表 ④

重点課題		重点目標		評価指標と活動計画		評価		学校関係者評価	次年度への課題と
重点課題		重点目標		評価指標と活動計画		評価		学校関係者の意見	今後の改善方策
互いに支え合い、励まし合い、ともに伸びようとする仲間づくり	IV) 人権教育の推進	① 児童理解に努め、一人ひとりの児童を大切にす る教育活動を推進する。	①-1 児童・保護者アンケートによる「楽しい学校」の達成率85%以上 ①-2 児童・保護者アンケートによる「思いやり」の項目の達成率85%以上 ①-3 仲間づくりとして、「ありがとうの木」に一人一枚以上カードを書く	①-1 楽しい学校の達成率は児童94%・保護者100%となり、どちらも指標を上回った。 ①-2 児童理解の「思いやり」の項目では、児童94%・保護者97%となり、どちらも指標を上回っているが「全くできていない」と答えた児童が6%いた。 ①-3 全学年、「ありがとうの木」に一人一枚以上、カードを書くことができた。	総合評価 (評定) <b>B</b>	人権教育について、本校の伝統を継承しつつ、新たな視点を取り入れ、積極的に行っていることが理解できる。	① 一人ひとりをよく見て、学級での問題を素早く対応していると思われる。アンケートからも、子どもたちは、学校生活を楽しく過ごしている。今後も努力を続けてほしい。	① 学校生活が楽しいと感じる児童が多い。 一人ひとりの児童が1日の学校生活に達成感を持てるような指導体制を、引き続き考えていきたい。 また今後は、保護者への情報発信の方法も考えていく必要がある。	
									② 互いに支え合い、励まし合い、互いを大切にす る仲間づくりを進める。
互いに支え合い、励まし合い、ともに伸びようとする仲間づくり	③ 郷土の学習を進め、聞き取り学習や交流学習などを行うことから、地域に根ざした人権教育を推進する。	③-1 1・2年生は、年間5回以上の交流学習や地域学習を実施 ③-2 3～6年生は、聞き取り学習を取り入れた地域学習を年間3回以上実施	③-1 1・2年生については年間7回行った。 ③-2 3年生以上の学年については、3年生は実施できたが、4年生以上では1回もしくは2回の実施となった。	重点目標③については、学校全体として、指標を達成できているが、一部に否定的意見をもつ児童もいた。今後も引き続き児童理解に努める。 重点目標③については、地域の教材や地域の人材を有効に活用することができた 今後も、地域の方々にご協力を頂きながら、地域の学習を進めていきたい。	重点目標③については、地域の教材や地域の人材を有効に活用することができた 今後も、地域の方々にご協力を頂きながら、地域の学習を進めていきたい。	③ 郷土の学習は大切な内容である。今後とも、児童の身につく郷土学習を中心に、児童の地域への思いや人権に対する思いを大切に考えた学習の計画を立てていってほしい。	③ 地域の方の協力で、聞き取り学習や地域学習・交流学習を行うことができた。また、地域の方の思いや願いを知ることもできた。今後も、地域に根ざした人権学習を推進していく。		
								活動計画 ①-1 授業及び休み時間等、児童とのかかわりを通して、一人一人の思いや願いの把握に努め、教職員間で共通理解を図る。 ①-2 「ありがとうの木」に友達のいいところや感謝の気持ちを言葉で伝え、一人ひとりを大切に尊重し合う心を養う。 ②-1 朝の会や帰りの会で児童のよいところを、互いに認め合う時間を設け、温かい雰囲気 の学級づくりをすすめる。 ②-2、3 子ども主体で進め、高学年が低学年にあわせた活動計画をたてる。 ③ 聞き取り学習や交流学習等、地域教材を核とした人権学習の充実を図る。	活動計画の実施状況 ①-1 児童一人一人とかがわる機会を大切にし、教職員間においても、設定された時間だけでなく、日頃の会話を通して共通理解を図り、児童への対応に努めた。 ①-2 相手に伝えたい気持ちを持続できるように、学期ごとにカードの色をかえたり、教員が児童へ言葉がけをしたりするなど、支援を行った。 ②-1 互いに認め合う時間を設け、友達のよさに目を向けるようにすることで、仲間づくりを常に意識できるようにしてきた。 ②-2、3 高学年が計画を立て、低学年に合わせた活動やお世話ができた。 ③ 低学年では、オープンスクールで秋のフェスティバルを行い、地域の人と交流を深めた。 中・高学年においては、総合的な学習の時間の中で「一宮小唄」「一宮城趾」「一宮橋」「木村和蔵先生」「識字学級」等、発達段階に応じて学習できた。

「総合評価」における「評定」の基準 A：十分達成できた、 B：概ね達成できた、 C：達成できなかった